

平成23年10月発行

11月1日～7日は
文化財保護強調週間

文化財愛護シンボルマーク



文化財まもるくん



ぶんかざい

おおた

第14号

大田区教育委員会では、貴重な郷土の歴史遺産である文化財の保護と活用の為に、様々な活動を行っております。

10月1日から11月30日までは東京文化財ウィーク事業期間です。区内でも各種の行事が開催されます。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

「池上本門寺宝塔」が

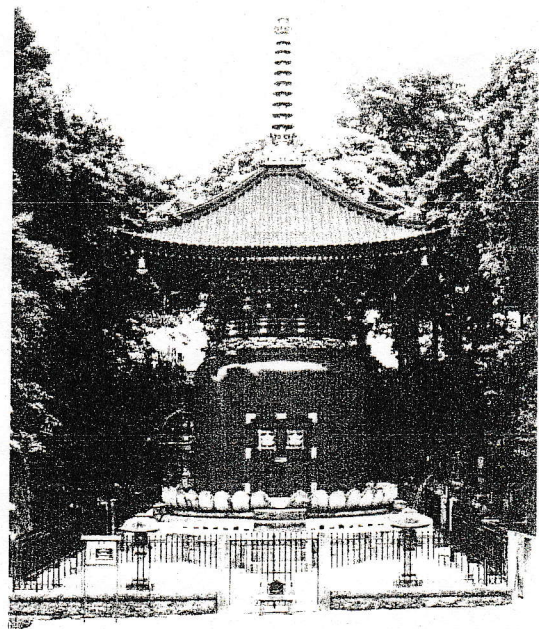
重要文化財に指定されました

池上本門寺宝塔は、意匠的に優秀なものと評価され、平成22年12月24日、都指定から国指定の重要文化財になりました。

宗祖日蓮聖人の550遠忌報恩事業の眼目として、江戸芝口講中が本願主となるとともに、末寺よりの勸財等により、文政9年(1826)に着工、同11年(1828)に上棟し(建立棟札)、遠忌を翌年に控えた同13年(1830)に竣工しました。日蓮入滅の遺跡である池上本門寺山内、日蓮御茶毘所跡に南面して建ち、灰塔とも呼ばれます。

現存する宝塔形式の仏塔のうち最大規模を誇り、内外に豊かな彫刻や彩色が施されています。屋外に現存し、内部空間をもつ木造の宝塔は全国的にも類例が少なく、貴重なものです。

平成19年度～21年度にかけて保存修理事業が行なわれ、調査結果をもとに創建当初の姿に修復されました。



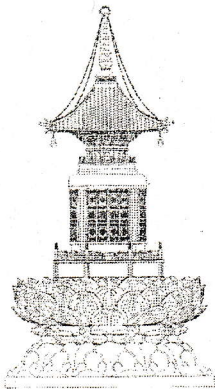
重要文化財「池上本門寺宝塔」の 附指定となった文化財の紹介

保存修理の際に行われた調査によって重要性が確認された文化財も、附(つけたり)として指定となりました。

宝塔 (瓦棒黒漆塗、木製蓮華座付) 1基

従来の都指定段階から附となっていました。宝塔形式の木製厨子で、意匠は本体の宝塔と類似しています。蓮の葉を模した台座の上に、10頭の瑞亀が金色の蓮華座を支え、その上に木製の八角基壇の上に小宝塔が安置されています。

解体修理時に、蓮華座の蓮弁に墨書銘が発見され、宝塔本体と同時期の文政13年(1830)に、仏師の「大仏師神尾儀助」によって建立されたことが確認されました。



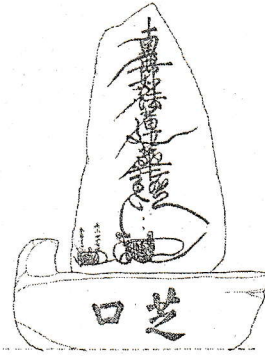
附、宝塔 (立面図)

棟札 (文政11年11月) 1枚

上棟の年代や建立願主、大工名などが記されています。これにより、文政11年(1828)に上棟し、本願主は「江戸芝口講中」、大工は本門寺御用大工「小木新七」や当時の池上本門寺47世日経の御用大工だった伊豆土肥の「平田幸助」らであることが確認されました。

石塔 (天保2年10月) 1基

宝塔の傍らに立っています。日蓮聖人550遠忌にあたる天保2年(1831)に、芝口講中によって建立された記念碑です。背面に刻まれた講中の交名には、江戸の買物ブックとして有名な『江戸買物独案内』に紹介される大店など、現在の新橋駅付近の商人や職人などの名が見えます。



石碑 (実測図)

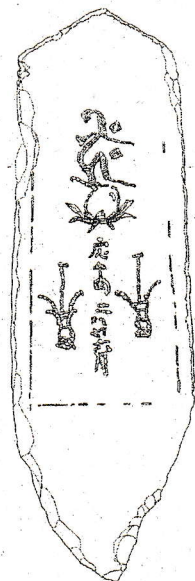
※ 本紙掲載の写真・図版は、『東京都指定有形文化財 池上本門寺宝塔保存修理工事報告書』(平成22年6月、池上本門寺)より転載。

文化財(板碑)調査

板碑は、関東地方などで造立された石造の供養塔です。秩父などでとれる緑泥片岩を用い、青石塔婆ともいわれます。板状に整形した石の頂部を三角形にとがらせ、片面に仏を表した梵字や蓮座、花瓶、さらに年号や造立の趣旨などを刻んだものもあります。武士や有力農民の供養塔として、死後あるいは生前に寺院や故人のゆかりの地に建てられました。中世(鎌倉時代から江戸時代初め)にだけみられる貴重な遺物です。

大田区では、昭和47年(1972)に『大田区の板碑』(大田区の文化財第9集)を刊行し、収録板碑中、万福寺や池上本門寺山内、大森東・弁天神社から出土した板碑は、区指定文化財となっています。

調査・指定から30年以上を経過し、保存状況にも変化が見られると考えられるため、確認調査を行いました。この調査成果は、『大田区の板碑集録』(大田区の文化財第39集)として刊行する予定です。



万福寺板碑 (実測図)



よこあなほ

区内の横穴墓の調査



平成22年度は、横穴墓の調査が3件ありました。横穴墓は古墳時代の終わりから奈良時代の初めにかけて造られたお墓です。斜面地を利用してトンネルのように横穴を掘って、お墓としたもので、地形の起伏に富んだ斜面地の多い大田区では、これまでに数多くの横穴墓が発見されています。

今回は、久が原五丁目（久ヶ原遺跡）、中央六丁目（新発見の横穴墓）、山王一丁目（山王一丁目横穴墓群）で建設工事に伴い発掘調査しました。

どの調査も、検出された横穴墓は1基だけで、副葬品は出土しませんでした。久が原と中央では、人骨が一体のみで、どちらも10代後半～20代の女性で推定身長は約146～148cmでした。山王では、人骨が二体で一体は12歳前後、もう一体は6～7歳前後で、性別は判断することが困難でした。

久が原や中央の横穴墓は規模が小さく、一人を埋葬するために造られたものと考えられますが、山王の横穴墓は、2体とも人骨が隅のほうに寄せられていたことから、いったん埋葬され、その後、骨になった段階で、さらに他の人を埋葬することを見こして、隅へ寄せられたことが考えられます。

しかし、山王では2体以外に人骨は発見されなかったことから、結局、このお墓は二人の子供の埋葬のほかには使われなかったことがわかっています。



横穴墓内の人骨（中央6丁目）



横穴墓（手前の石積みがお墓の入り口）



さんのういせき

山王遺跡



平成22年7月、山王二丁目で建設工事に伴い、約32㎡を発掘調査しました。山王遺跡は、主に弥生時代の中頃から古墳時代の初めにかけての集落跡の遺跡です。

今回の調査では、古墳時代の初め頃の住居跡1軒が発見されました。長軸が4.4m、短軸が4.1mの規模の竪穴住居でした。

なお、住居の床面のさらに下から柱の跡や別の床面が見つかったことから、この住居は拡張をするために建て替えを行ったことがわかっています。



古墳時代住居跡の調査

平成22年度 埋蔵文化財調査件数

発掘届：150件

本調査：7件（久ヶ原遺跡、山王遺跡、中央六丁目発見横穴墓、下沼部貝塚、稻荷森遺跡、洗足池公園付近遺跡、山王一丁目横穴墓群）

試掘調査：8件（雪ヶ谷貝塚、山王遺跡、下沼部貝塚、塚越横穴墓群、洗足池公園付近遺跡、稻荷森遺跡2件、久ヶ原遺跡）

これからの行事予定

★ 文化財講演会

大田区の埋蔵文化財の現状と今後の課題について、平成24年2月に講演を開催します。

講演会の日時や講師についての詳細は、区報でお知らせします。

★ 埋蔵文化財速報展 (ロビー展示)

平成22年度に行われた区内の遺跡の発掘調査成果について、ロビー展示を行います。

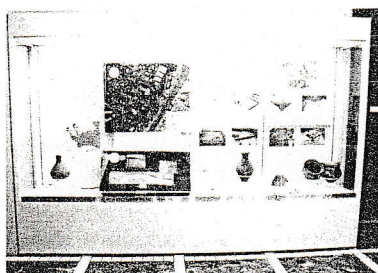
日時：平成23年12月20日(火)

～平成24年3月31日(土)

会場：郷土博物館1階ロビー



昨年度の講座の様子(土器を観察する参加者の方々)



ロビー展示(郷土博物館1F)

新しい刊行物のお知らせ

◆ 大田区の文化財第38集 1,000円

『羽田レンガ提調査報告書』

多摩川河口部、羽田地区に残存するレンガ提について調査し、その記録結果をまとめました。

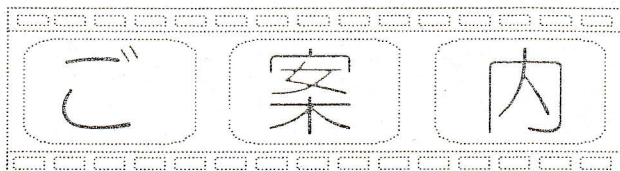
◆ 大田区の埋蔵文化財第20集 1,000円

『久ヶ原遺跡Ⅲ 山王遺跡Ⅲ 発掘調査報告書』

平成18年～21年に行われた遺跡の発掘調査についての報告書です。

販売場所 郷土博物館

大田区役所2階 区政情報コーナー



11月1～7日は文化財保護強調週間です。

♥ 文化財の公開

①大坊本行寺(池上2-10-5)

「法華経板木」都指定有形文化財

11月3日

午前9時30分～午後4時

「日蓮上人入滅の旧跡」都指定旧跡

10月29日～11月6日

午前9時30分～午後4時

②池上本門寺(池上1-1-1)

「五重塔」国重要文化財指定100年記念

特別公開 初層のみ公開。塔内には入れません

雨天中止

11月5・6日、午前10時00分～午後3時

(期間外は外観のみ公開。午前9時～日没)

「宝塔」国重要文化財指定

外観のみ公開。午前9時～日没

③多摩川台公園(田園調布1-63-1)

「亀甲山古墳」国指定史跡

「宝萊山古墳」都指定史跡

「多摩川台古墳群」都指定史跡

④大森 海苔のふるさと館(平和の森公園2-2)

「大森及び周辺地域の海苔生産用具」

国重要有形民俗文化財

午前9時～午後5時 第3月曜休館

祝日は開館

参加方法 ①と②五重塔は当日現地へ、②～④は期間以外にも見ることができます。

♣ 文化財ウィークガイドの配布

(数に限りがあります。ご了承ください)

配布場所 郷土博物館

大森海苔のふるさと館

大田区役所2階 区政情報コーナー

大田区教育委員会 郷土博物館 文化財担当

〒143-0025 大田区南馬込5-11-13

TEL 03-3777-1281 fax 03-3777-1283